

大学の体育実技の指導に関する研究

運動技能上位者と下位者との授業に対する態度の差異の分析（第1報）

神 代 古 典

A Study on the Direction of Physical Education Activities for the University.

—An Analysis on the Difference Between the Attitudes of High Motor-Ability Students and Low Motor-Ability Students Towards Physical Education Activities.— (Part 1)

Hisanori KAJIRO

In the Physical Education activities classes, especially in the sports ones, it is showed that the high motor-ability students tend to occupy the important part, and low motor-ability students are pressed with a nook.

The purpose of this study is to try to make the teaching method in which both high motor-ability students and low motor-ability students take more positively part in the Physical Education class.

I. 序 文

スポーツを教材とした体育の授業の場合、技能の優れる者が活動場面の中心を占め、技能の劣る者は周辺に追いやられるということは、我々が日常しばしば目にするところであり、また我々自身の授業においても、このような傾向が多分に存在していることは否定できない。

しかし、このような傾向の授業では、技能の劣る者は、活動場面の周辺に追いやられることによって、技能を向上させるチャンスを奪い去られるだけでなく、劣等感や体育嫌いの感情を生みやすいし、一方、技能の優れる者は、大いに活動して技能を伸ばしているように見えながら、実はそれは個人的なレベルでの技能であり、さまざまな技能の持ち主を有機的に組織してその中で自己の技能を生かすというチームプレイを展開させる技能を伸ばしてはいないのではないかと考えられる。

つまり、このような傾向の体育の授業では、技能の劣る者だけでなく、技能の優れる者も生かされていないのだといえる。

我々は、研究者であると共に実践者として、みずからの授業を技能の優れる者も劣る者も共に生かす授業にしたいと考え、試行錯誤の実践をしてきた。本報告は、そ

の実践結果の第一報である。

II. 研究の目的

スポーツを教材とした体育の授業の場合、技能の優れる者が活動場面の中心を占め、技能の劣る者は周辺に追いやられる傾向がある。本研究では技能の優れる者も劣る者も共に生かす「よい授業」を形成する要因を見い出そうとしたものである。

III. 研究の方法

教材はバスケットボール、対象は51年度前期N大学1年甲学級、男子31名、女子6名、と51年度後期N大学1年乙学級、男子37名、種目は自由選択制なので、これらの学生はいずれもバスケットボールの履修をみずから希望した学生である。両学級とも6つの班を編成し、最初の2週は教師の一斉指導で基礎練習を行い、次の週からはグループ学習に切り換え、4対4の練習試合を各班とも4回行ったあと、各14分間のリーグ戦を各班とも甲学級では10試合、乙学級では12試合行った。ゲームに際しては特定の者だけがシュートするのではなく、全員がシュートできるように、ということを強調し、練習に際し

ても、そのようなチーム作りに留意することを強調した。そして、ゲームに際しては、記録、審判の係になった班の学生に、個人別のシュート数とその成否の回数を記録させた。

つまりこの授業では、技能の優れる者も劣る者も、みんなを生かすというねらいがどれほど達成されているかということ把握するための指標として、個人別のシュート数とその成否の数を記録した。

このような考え方、「みんなを生かす」ということと「みんながシュートを！」ということとは果たして同じであるかという疑問が生じることは、当然予想されることである。確かに、自分では殆んどシュートしなくても、ゲームメーカーあるいはそれに類似した役割をになって、ゲームの中で不可欠の重要な役割を果たすという場合もある。しかし、高度に組織化されたバスケットボール部の試合でならいざ知らず、週1回の体育の授業でそのような分業化を望むのはむりなことであるばかりでなく、そもそもそのように役割を固定した分業化を図ることが妥当であるかどうか甚だ疑問であり、バスケットボールの第一の楽しみは、何と云ってもゴールに向かってシュートすることであると考えれば、体育の授業でみんなを生かすということは、みんなが役割を交代しあいながらみんながシュートするというのではないかと、我々

は考えたのである。なお学期の最初と最後に小林篤らの「態度測定による体育の授業診断法」を用いて調査を行い、また学期の最後には、これに加えて、若干の諸調査を行った。

IV. 調査の結果

リーグ戦での個人別シュート数の分布を、リーグ戦の前半と後半に分けて図示すると図1、図2のようになる。もし「みんながシュートを！」という目標が回を追って達成していったとすれば、このシュート数の分布は、横に平べったく並ぶはずである。リーグ戦の前半は、まだ、個人別のシュート数にかなりばらつきがあっても、後半になるとそのばらつきはかなり、小さくなるはずである。実際に多少なりとも成果が見られるのは、図1の甲学級では、B班、D班、E班の3つであり、図2の乙学級では、D班、E班の2つである。

ここでバスケットボールの技能上位者と下位者の授業に対する態度の違いを分析するために、シュート数の多い者を技能上位者、シュート数の少ない者を技能下位者として学生を2分し、諸調査の結果をこの両群に分けて比較することにした。そのため図3、図4のようにシュート数とシュート成功数の分布図を作り、図3ではシュート数43回以上を技能上位者、それ以下を技能下位者と

図1 個人別シュート数の分布 (甲学級)

注) 女子の班(A班)との試合に限り、人数は4対5とし、A班のゴールは4点、フリースロー2点とした。

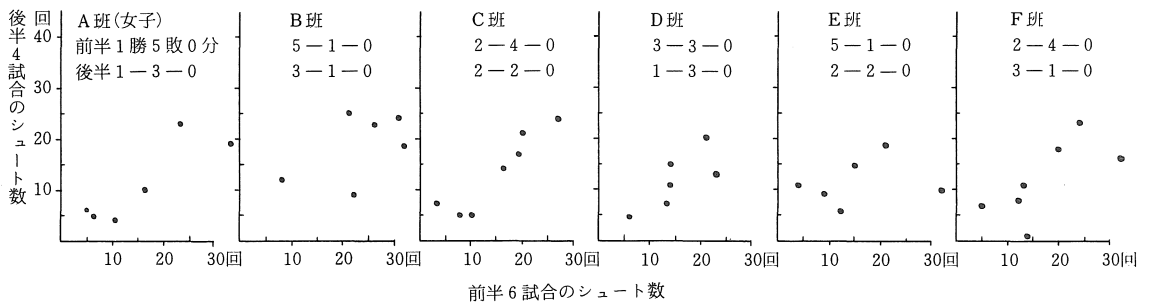


図2 個人別シュート数の分布 (乙学級)

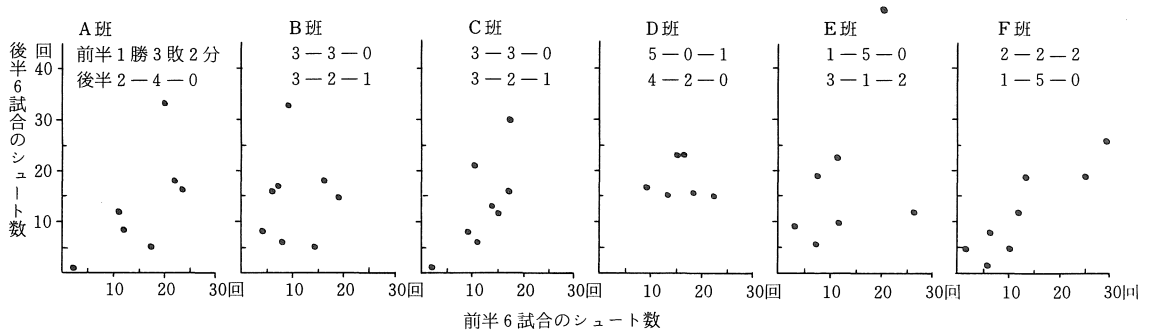


図3 シュート数とシュート成功数の分布 (甲学級)

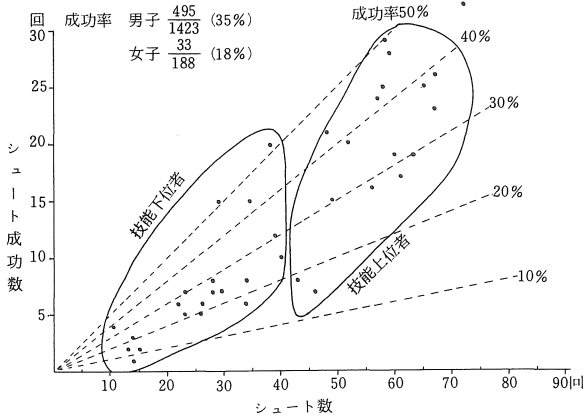
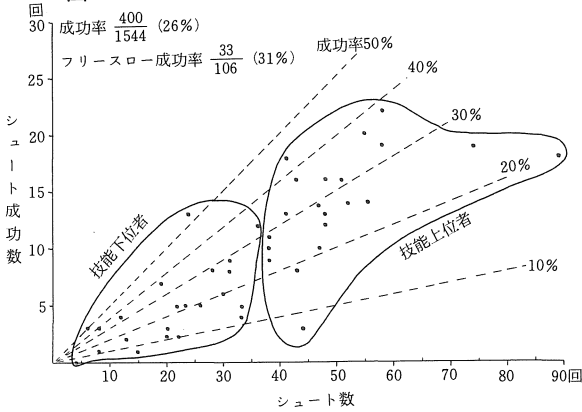


図4 シュート数とシュート成功数の分布 (乙学級)



し、図4ではシュート数38回以上を技能上位者、それ以下を下位者とした。

甲学級に対する態度測定の結果を技能上位者と、下位者に分けて集計したものが表1であり、また、この表に示した態度スコアを図示したのが図5である。

この図にみられるように技能上位者の「よろこび」のスコアは、当初から、もはや限界と思えるほどに高いレベルであり、したがってこのスコアは、1学期間の授業によっても、ほぼ横ばいのまま終わった。しかし技能下位者のスコアは標準以上の伸びを示して判定はAとなった。また技能上位者、下位者とも「評価」と「価値」のスコアは1学期間の授業によってそれぞれ標準以上に伸びて、判定はすべてAとなった。技能の向上という点ではこの授業には、今後改善、工夫を加えるべきことが多々あり、実際、図6の(1)にみられるとおり、学生自身、技術修得はできなかつたと答えた者が技能上位者、下位者共、それぞれ1/2ほどいる。しかし、少なくともこの態度

測定の診断法でみる限り、この授業は、学生を引きつけ、成功した授業であったと考えることができる。

注目されるのは、学期始め(つまり入学時)の調査では、表1にみられるとおり22「みんなの活動」のスコアが技能下位者だけでなく上位者もまた低く、上位者ではさらに23「みんなの喜び」、24「利己主義の抑制」も低く、そして一方下位者では、27「理論と実践の統一」が低く、29「教師の存在価値」への疑問もみられた。これは入学時の調査であり、高校までの体育授業をふりかえって答えさせたもので、高校時代までに受けてきた体育授業の中に、一部の優れる者が活動場面の中心を占めて、劣る者は周辺に追いやられていたという傾向が少なくないことを示唆しており、また、その事実を優れる者自身も認め、劣る者はそのような傾向の中で教師の存在価値に疑問を感じていたという事実を示しているものと考えられることができる。

しかしこのような傾向は、この大学での最初の体育の授業の中では、ほとんど完全にぬぐい去られたということ、学期末の態度測定の結果は示している。そのことは、同じく、学期末に行った諸調査の結果からも知ることができる。図6の(2)「精一杯運動することができたか」、(3)「のびのびと活動することができたか」、(5)「授業につまらなかったことがあったか」、(6)「アッ、ワカッタ!!」とか「アア、ソウカ!!」と思ったことがあったか」などの間に対する回答は、技能上位者、下位者の間に全くといってよいほどの差がみられなかった。ただ1つ、(4)「授業中にうれしかったことがあったか」という間に対する回答だけが対照的であった。

図5 甲学級の態度スコアの変化

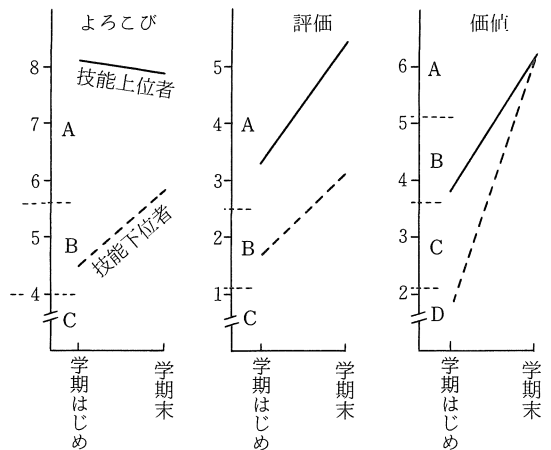


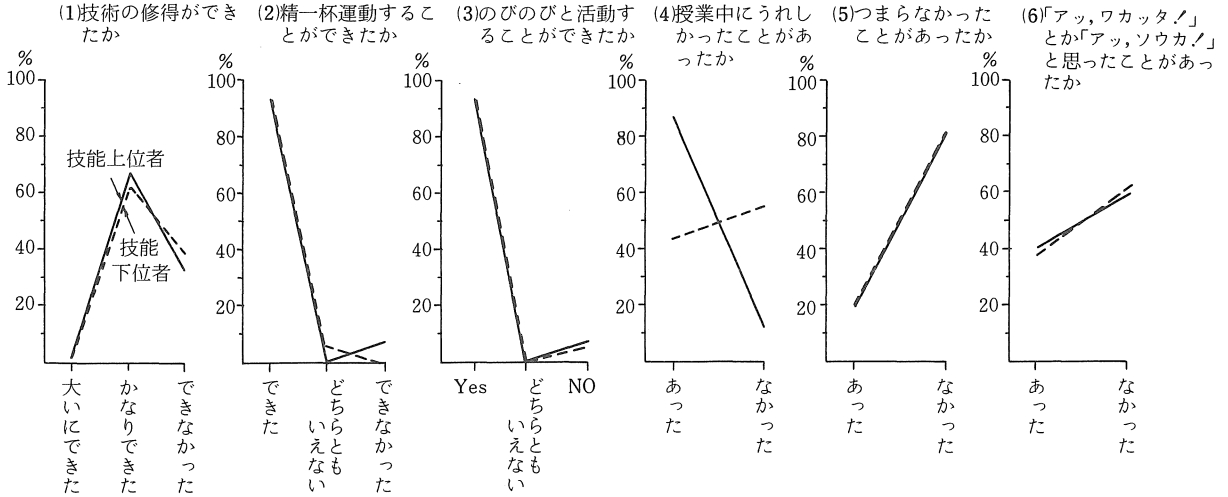
表1 態度測定の結果(甲学級)

調査人員 (n) 学期はじめ 人 学期末 人		技能上位者 (15名)						技能下位者 (16名)						
		項目点 (○-×) / n			診断			項目点 (○-×) / n			診断			
		学期 はじめ ①	学期 末②	変 化② ①	学期 はじめ	変 化	学期 末	学期 はじめ ①	学期 末②	変 化② ①	学期 はじめ	変 化	学期 末	
よろこび	1	ころよい興奮	0.87	0.93	0.06	○	↗	○	0.69	0.69	0.00	○		○
	2	心身の緊張ほぐす	0.87	0.80	-0.07	○		○	0.81	0.69	-0.12	○		
	3	生活のうるおい	0.93	0.80	-0.13	○		○	0.50	0.63	0.13	○	↗	○
	4	苦しみより喜び	1.00	0.87	-0.13	○		○	0.44	0.69	0.25		↗	○
	5	集団活動の楽しみ	0.93	0.93	0.00	○	↗	○	0.69	0.81	0.12	○	↗	○
	6	友だちを作る場	0.80	0.67	-0.13	○		○	0.31	0.50	0.19			○
	7	積極的活動意欲	0.67	0.73	0.06	○	↗	○	0.44	0.44	0.00	○		○
	8	自主的思考と活動	0.13	0.47	0.34		↗	○	-0.19	0.44	0.63	×	↗	○
	9	体育科目の価値	0.87	0.87	0.00	○		○	0.44	0.69	0.25		↗	○
	10	授業時間数	1.00	0.87	-0.13	○		○	0.38	0.25	-0.13			
態度スコア		8.07	7.93	-0.14	A	4	A	4.50	5.81	1.31	B	4	A	
評価	11	キビキビした動き	0.53	0.87	0.34	○	↗	○	0.56	0.56	0.00	○		○
	12	体力づくり	0.60	0.73	0.13	○		○	0.25	0.44	0.19			
	13	明朗活発な性格	0.53	0.80	0.27	○	↗	○	0.44	0.44	0.00	○		○
	14	精神力の養成	0.40	0.67	0.27	○	↗	○	-0.06	0.13	0.19			○
	15	堂々ががんばる習慣	0.13	0.47	0.34		↗	○	0.13	0.44	0.31		↗	○
	16	協力の習慣	0.47	0.67	0.20	○	↗	○	0.63	0.69	0.06	○		○
	17	基本的理論の学習	0.13	0.33	0.20		↗	○	0.25	0.19	-0.06	○		
	18	深い感動	0.20	0.00	-0.20	○		○	-0.38	-0.13	0.25	×		
	19	授業のまとまり	0.13	0.40	0.27		↗	○	0.00	0.31	0.31		↗	○
	20	授業の印象	0.13	0.47	0.34		↗	○	-0.13	0.00	0.13	×		
態度スコア		3.27	5.40	2.13	A	5	A	1.69	3.06	1.37	B	4	A	
価値	21	チームワーク発展	0.40	0.67	0.27		↗	○	0.00	0.50	0.50	×	↗	○
	22	みんなの活動	0.00	0.47	0.47	×	↗		-0.13	0.50	0.63	×	↗	○
	23	みんなの喜び	0.00	0.47	0.47	×	↗	○	0.25	0.75	0.50		↗	○
	24	利己主義の抑制	0.27	0.60	0.33	×	↗		0.56	0.88	0.32		↗	○
	25	永続的な仲間	0.47	0.67	0.20	○	↗	○	0.13	0.63	0.50		↗	○
	26	主体的人間の育成	0.73	0.93	0.20	○	↗	○	0.56	0.88	0.32		↗	○
	27	理論と実践の統一	0.07	0.67	0.60		↗	○	-0.06	0.13	0.19	×		
	28	授業のねらい	0.53	0.53	0.00	○		○	0.25	0.81	0.56		↗	○
	29	教師の存在価値	0.67	0.67	0.00	○		○	0.00	0.69	0.69	×	↗	○
	30	体育科目の必要性	0.67	0.53	-0.14	○		○	0.31	0.50	0.19			○
態度スコア		3.80	6.20	2.40	B	5	A	1.88	6.25	4.37	D	5	A	

表2 態度測定の結果（乙学級）

調査人員（n） 学期はじめ 人 学期末 人		技能上位者 （18名）						技能下位者 （19名）						
		項目点 （○-×）/ n			診 断			項目点 （○-×）/ n			診 断			
		学期はじめ ①	学期末 ②	変化② ①	学期はじめ	変 化	学期末	学期はじめ ①	学期末 ②	変化② ①	学期はじめ	変 化	学期末	
よ ろ こ び	1	ころよい興奮	0.67	0.44	-0.23	○			0.16	0.32	0.16			
	2	心身の緊張ほぐす	0.72	0.67	-0.05	○			0.53	0.79	0.26		↗	○
	3	生活のうろおい	0.33	0.28	-0.05				0.11	0.37	0.26	×		
	4	苦しみより喜び	0.83	0.67	-0.16	○		○	0.47	0.63	0.16			
	5	集団活動の楽しみ	0.72	0.78	0.06	○	↗	○	0.58	0.79	0.21	○	↗	○
	6	友だちを作る場	0.33	0.33	0.00				0.26	0.37	0.11			
	7	積極的活動意欲	0.28	0.33	0.05			○	0.26	0.42	0.16			○
	8	自主的思考と活動	-0.06	0.28	0.34			○	0.05	0.11	0.06			
	9	体育科目の価値	0.50	0.61	0.11	○	↗	○	0.42	0.53	0.11			○
	10	授業時間数	0.72	0.44	-0.28	○	↘		0.26	0.47	0.21			○
態 度 ス コ ア		5.06	4.83	-0.23	B	3	B	3.11	4.79	1.68	C	4	B	
評 価	11	キビキビした動き	0.33	0.28	-0.05				0.32	0.26	-0.06			
	12	体力づくり	0.50	0.33	-0.17				0.26	0.37	0.11			
	13	明朗活発な性格	0.39	0.17	-0.22	○			-0.05	0.32	0.37	×	↗	○
	14	精神力の養成	0.11	-0.22	-0.33	○	↘		0.00	0.05	0.05			
	15	堂々がんばる習慣	0.11	-0.17	-0.28		↘	×	-0.16	-0.21	-0.05	×		×
	16	協力の習慣	0.33	0.28	-0.05				0.26	0.47	0.21			○
	17	基本的理論の学習	0.00	-0.28	-0.28		↘	×	0.21	-0.05	-0.26	○	↘	
	18	深い感動	-0.22	0.11	0.33		↗		-0.37	0.11	0.48	×	↗	○
	19	授業のまとめ	0.00	0.11	0.11				0.37	0.00	-0.37	○	↘	
	20	授業の印象	-0.33	-0.17	0.16	×		×	-0.26	-0.11	0.15	×		×
態 度 ス コ ア		1.22	0.44	-0.78	B	2	C	0.58	1.21	0.63	C	3	B	
価 値	21	チームワーク発展	0.28	0.44	0.16				0.26	0.42	0.16			
	22	みんなの活動	0.28	0.44	0.16		↗		0.11	0.26	0.15	×		
	23	みんなの喜び	0.28	0.50	0.22		↗	○	0.21	0.42	0.21			○
	24	利己主義の抑制	0.67	0.39	-0.28	○		×	0.68	0.58	-0.10	○		
	25	永続的な仲間	0.44	0.28	-0.16	○			0.53	0.42	-0.11	○		○
	26	主体的人間の育成	0.56	0.83	0.27		↗	○	0.47	0.89	0.42	×	↗	○
	27	理論と実践の統一	-0.06	0.06	0.12	×			0.05	0.26	0.21			
	28	授業のねらい	0.28	0.33	0.05				0.32	0.53	0.21		↗	○
	29	教師の存在価値	0.11	0.22	0.11	×			0.11	0.58	0.47	×	↗	○
	30	体育科目の必要性	0.39	0.44	0.05				-0.05	0.21	0.26	×		
態 度 ス コ ア		3.22	3.94	0.72	C	4	B	2.68	4.58	1.90	C	4	B	

図6 甲学級に対する諸調査の結果



技能上位者では「うれしかったことがあった」と答えた者は87%で「シュートが決まった時」と書いている者が最も多く、次いで「チームが勝った時」「チームがとてもしっかり伸び伸びとプレイをしていたこと」「チームがまとまっていた」などチーム全体を見渡した記述がみられるのに対して、技能下位者では「うれしかったことがあった」と答えた者は44%にとどまり、「シュートが決まった時」「試合に勝った時」といづれも技能上位者より少なく、他には、「汗をかいたこと」「誰とでも気軽に話せる」など個人的なことがらの記述がみられるだけで、上記のようなチーム全体を見渡した記述はみられず、技能の差が、この回答には、はっきりと表われているといえる。

乙学級は、甲学級とはかなり様相を異にしている。す

でに最初にみたように「みんながシュートを!!」というねらいに多少とも近づいた度合いは甲学級よりも乙学級

図7 乙学級の態度スコアの変化

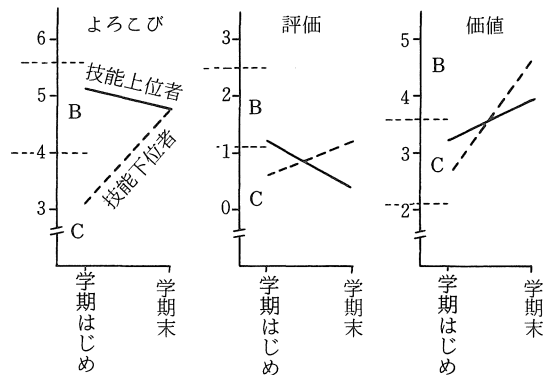
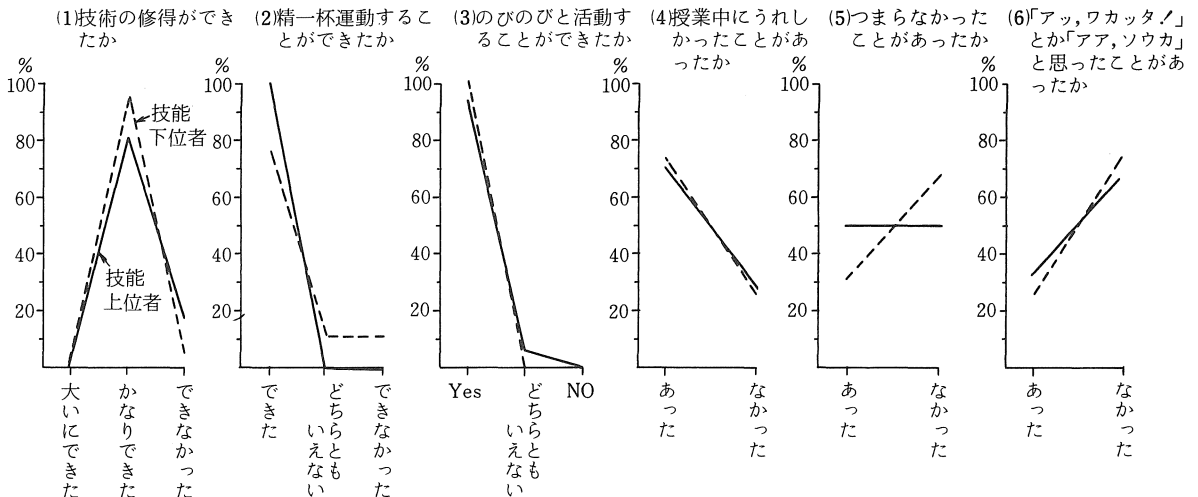


図8 乙学級に対する諸調査の結果



の方が少なく、その時点ですでに甲学級よりも乙学級の方により多くの問題が内包されていることがわかったのであるが、態度測定及び諸調査の結果から、そのことが具体的に明らかになってきた。まず、表2及び図7の態度測定の結果、これは1年生後期の授業なので、学期始めの測定は、前期の授業についてふりかえって答えさせた。その結果は、いずれも技能上位者が技能下位者より高く、この傾向は、表1、図5の甲学級の場合と同じであるが、1学期間の授業による「よろこび」の態度スコアの変化の様相も、甲学級と同じである。

ところが「評価」のスコアは、技能上位者は1学期間の授業でダウンして技能下位者に追い抜かれ、また「価値」のスコアも、上昇しているが技能下位者に追い越されている。つまりこの授業では、技能上位者に留意すべき問題点があったのではないと思われる。

その理由として、図8の(5)では上位者の50%が授業中つまらなかったことがあったと回答しており、その内容

をみると、甲学級の方では一つも出ていなかった試合に負けた時というのが最も多くみられた。それはたぶん甲学級ではチームプレーに中心がおかれ、劣る者もいかされ、たとえ試合に負けても喜びが生まれたということだと考えられる。

しかし、乙学級では勝負に中心がおかれチームプレーという点に問題点があったのではないと思われる。これらが、図1、図2の違いを生みだした原因であろう。

同じ指導をしながら、このような違いが生れた原因は、指導者、学生側の問題、施設の問題、気候の問題など複雑にからみあって、これらが、どのように結びあっているのかは今回の調査だけでは結論づけることはできない。今後、なお、授業の記録をつみかさねることによって、これらの原因を明らかにしていきたいと考えるものである。

(受理 昭和57年1月16日)

調 査 票 (学期はじめ)

氏名または記号・符号*

*先生の説明を聞いてから記入して下さい。

今までの体育の授業の経験にもとづいて、次の30の意見のそれぞれに対して、賛成なら○、反対なら×、
どちらともいえないときは△を、マスの中に記入して下さい。

賛成 ○, 反対 ×, どちらともいえない △

- | | | |
|---|--------------------------|----|
| 1. 体育の授業のあとは、ころよい興奮がのこる..... | <input type="checkbox"/> | 1 |
| 2. 体育の授業は、心や身体の緊張をほぐしてくれる..... | <input type="checkbox"/> | 2 |
| 3. 体育の授業は、生活にうらおいをあたえてくれる..... | <input type="checkbox"/> | 3 |
| 4. 体育の授業では、私はよるこびよりも苦しみが多い..... | <input type="checkbox"/> | 4 |
| 5. 体育の授業で、いろいろな人といっしょに活動することが私はとても楽しい..... | <input type="checkbox"/> | 5 |
| 6. 体育の授業は、友だちをつくる場として高く評価することができる..... | <input type="checkbox"/> | 6 |
| 7. 体育の授業は、自分から積極的に汗を流し、身体をきたえようという意欲を起させる..... | <input type="checkbox"/> | 7 |
| 8. 体育の授業では、われわれが自主的に考え活動することができる..... | <input type="checkbox"/> | 8 |
| 9. 体育は教科のなかで、もっとも価値あるものの1つだ..... | <input type="checkbox"/> | 9 |
| 10. 体育の授業時間数は少なすぎる..... | <input type="checkbox"/> | 10 |
| 11. 体育の授業は、キビキビした動きのできる身体をつくる..... | <input type="checkbox"/> | 11 |
| 12. 体育の授業は、体力づくりに役立つ..... | <input type="checkbox"/> | 12 |
| 13. 体育の授業で明朗活発な性格をつくることができる..... | <input type="checkbox"/> | 13 |
| 14. 体育の授業は、たくましい精神力を養成する..... | <input type="checkbox"/> | 14 |
| 15. 体育の授業は、どんなときにも正々堂々とがんばる習慣を身につけさせてくれる..... | <input type="checkbox"/> | 15 |
| 16. 体育の授業は、おたがいに助けあい、協力しあう習慣を身につけさせてくれる..... | <input type="checkbox"/> | 16 |
| 17. 体育の授業では、運動のやり方だけでなく、その基本となる理論を学ぶことができる..... | <input type="checkbox"/> | 17 |
| 18. 体育の授業で、私はときどき深い感動を感じる..... | <input type="checkbox"/> | 18 |
| 19. 体育の授業は、中途はんばでまとまりがない..... | <input type="checkbox"/> | 19 |
| 20. 体育の授業は、その場かぎりのもので、長く印象に残るといふようなことはない..... | <input type="checkbox"/> | 20 |
| 21. 体育の授業で、チームワークやチームプレーの発展を期待するのはむりだ..... | <input type="checkbox"/> | 21 |
| 22. 体育の授業では、能力の高いものや、ずうずうしいものがのさばる..... | <input type="checkbox"/> | 22 |
| 23. 体育の授業で、体育をするよるこびを味わうことができるのは一部の人にすぎない..... | <input type="checkbox"/> | 23 |
| 24. 体育の授業では、人間の利己主義がむきだしになる..... | <input type="checkbox"/> | 24 |
| 25. 体育の授業のときの仲間は、その場限りの仲間にすぎない..... | <input type="checkbox"/> | 25 |
| 26. 体育の授業は、なにも考えずに命令にしたがう人間をつくりやすい..... | <input type="checkbox"/> | 26 |
| 27. 体育の授業は、理論と実践がかけはなれている..... | <input type="checkbox"/> | 27 |
| 28. 体育の授業は、なにをねらっているのかわからない..... | <input type="checkbox"/> | 28 |
| 29. 体育の授業では、他の科目とくらべて先生の存在価値は低い..... | <input type="checkbox"/> | 29 |
| 30. 課外で自由にスポーツができる条件があれば、体育は科目としてなくてもよい..... | <input type="checkbox"/> | 30 |